



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ コミュニティバス路線の現状と課題

「家の近くにバス停があったら」「もっと便数多ければ使い勝手がいいのに」など、市民の皆さんからコミュニティバス(コミバス)についてさまざまなご要望が寄せられます。一方で「空気を運ぶようなバス」に危機感を募らせている人たちもおられます。今月は、どうすればコミバスを残せるのか、一緒に考えていただければと思います。

コミバスは「決まった時刻に」「決まった路線で」「多くの人数を移動させる」公共の交通手段として運行(現在、タクシー路線を含め14路線)しています。年間の利用者数約24万人のうち、月に1回以上利用する人は約3,400人。そのほかは、年に数回のみ利用する乗客です。 あり方が問われているコミバス



市民の皆さんからは「市民病院に行く路線がほしい」という要望をよく伺います。現在、市民病院へのバスは1日17便ありますが、聞き取り調査をした結果、1日937人の外来患者のうちバス利用者は26人(2.7%)しかいませんでした。

「あったら便利」と「利用する」の間には隔たりがあります。本当に必要な公共交通を住民と一緒に考え、的を絞らなければ、コミバスは維持できなくなっています。平成29年度の運賃収入は約4,000万円。一方で経費は約2億3,000万円でした。加えて、所有しているコミバスの老朽化も課題です。市所有のコミバスは現在13台ありますが、1台の車両を20年間使用したとしても、今後7年間で更新費用に約1億円もかかります。また、車両をワゴン車などに小型化しても、コミバスの運行委託料の大半は人件

費、次いで燃料費ですから、経費の節減効果は微少です。ちなみにコミバスの燃料費は年間2,000万円(軽油1ℓ/121円換算)で、乗客がなくても、毎年これだけの税金が使われることになります。

なぜコミバスの利用者が減少したのでしょうか。昔は、まちの中心に施設が集中し、1台のバスに乗り合わせて目的地へ向かうことができました。現在は、利用者の目的が多様化し目的地が分散した結果、移動ルートは個別化・複雑化し、1台のバスでは需要に答えられなくなりました。

では、どうすればコミバスを残せるのでしょうか。その答えは、「コンパクトプラスネットワーク」と「地域の力」だと考えています。市内それぞれの地域で都市機能を拠点に集約し、コミバスはそれぞれの拠点間を結ぶ最短ルートとして運行頻度を増やしていく。また、地域内の住民とコミバスをつなぐ移動手段は「デマンド型乗り合いタクシー」や「自主運行バス」などの方法により、自力(地域の力)で運行していただく。これらによって、持続可能なコミバスを存続させることができます。

地域内で自主運行バスを実現していただければ、市は、バス車両(ワゴン車)と燃料代および保険料などの経費を全額負担します。現在、鍋島と相賀では、地元の人たちが熱心に自主運行バスを検討しています。その中心メンバーに想いをお聴きすると、乗客のいないバスを見て「このままでは、コミバスはいずれ無くなる、と強い危機感を持った」とおっしゃっていました。今後もコミバスを維持継続していくために、地域で何ができるかを自分事として考えていただければ幸いです。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

昨年12月11日に東町で発生した建物火災で、消火活動に尽力した7人1団体を称え、3月9日、島田消防署長から感謝状を贈呈しました。

当日、近くを通りかかった7人と、近所の工場の皆さんが、水バケツや会社事務所の消火器を使い、延焼を防ぎました。火災の被害を最小限に食い止められたのは、迅速な通報と的確な初期消火のおかげです。今後も、適切な火災対策にご協力をお願いします。

【感謝状贈呈者】

杉森宗一さん、杉森郁子さん、杉森崇さん、池谷玲奈さん、池谷杏奈さん、齊藤拓也さん、須藤聖友さん、株式会社スンエン

(島田消防署 山崎さん)

